

## 福岡・如法寺遺跡



- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1 所在地           | 福岡県豊前市大字山内   |
| 2 調査期間          | 一九八一年（昭56）七月～八月  |
| 3 発掘機関          | 豊前市教育委員会   |
| 4 調査担当者         | 酒井仁夫   |
| 5 遺跡の種類         | 寺院跡  |
| 6 遺跡の年代         | 平安時代後期～鎌倉時代  |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 如法寺遺跡は、豊前市街地より南に約八kmの小高い山に囲まれた谷間にある。この寺はもと、求菩提山護国寺（天台宗）の末寺の一つ、写經所と考えられているところである。発掘調査は、求菩提山と共に国の史跡指定申請のため、事前調査であった。 |
| 8 木簡の积文・内容      | (1) 「有漏無漏□除尊□有漏非□漏□」<br>186×(19) 019   |
| 9 関係文献          | 豊前市教育委員会『如法寺 豊前市文化財調査報告書第四集』（一九八三年）<br>(重松敏美)  |

の遺構や遺物、それに鎌倉時代初期の遺物なども検出された。

木簡は、成就院という地名の場所で検出された遺物包含層から出土した。地層の下は地下水の浸透があり、木質類の保存状態は良好であった。木簡と共に、多くの護摩に投入される乳木などが検出された。

如法寺遺跡は、豊前市街地より南に約八kmの小高い山に囲まれた谷間にある。この寺はもと、求菩提山護国寺（天台宗）の末寺の一

つ、写經所と考えられているところである。発掘調査

は、求菩提山と共に国の史跡指定申請のため、事前調査であつた。

調査前から、経筒の破片

等が採集され、あらかじめ遺構の存在が予測されていた。調査では、平安時代末

- (1) 「有漏無漏□除尊□有漏非□漏□」  
186×(19) 019

不空訳「九品往生阿弥陀三摩地集陀羅尼經」に「離有漏永入無漏」とあるなど、有漏・無漏は仏教語である。この木簡は経巻片である。

豊前市教育委員会『如法寺 豊前市文化財調査報告書第四集』（一九八三年）  
(重松敏美)